

キャンヘルプタイランド

ネットワーク通信

2006年12月30日発行 第36号

特集記事

2006年8月ワークキャンプ報告

2006年7月31日から8月14日までタイ北部チェンマイ県ドイロー郡ファイナムカオ村でワークキャンプが行われました。日本からは引率を含む10名が参加し、現地の子供達や先生方、村人との交流を楽しみながら、既存の学校食堂の改築作業を行う楽しいキャンプとなりました。

今回のキャンプの目的は、学校内にある食堂内にあまり衛生的ではない犬や鶏の侵入を防ぐための壁を作ることで、キャンヘルプタイランドの建設プログラムからの資金と学校が用意した資金を合わせて、腰までの高さのブロック塀とその上に金網を設置するというものでした。児童の保護者や村人の手伝いもあり作業は短期間で終了し、残りの時間は子供達との交流に当て、運動会や習字、凧作りなどをしました。2週間という短い期間でしたが、作業あり交流あり視察あり観光ありと、今までにないくらい内容の濃いキャンプとなりました。

報告者 坂 茂樹

ワークキャンプ行程表

月日	時間	行動内容	宿泊
7月31日(月)	8:00	中部国際空港集合・バンコクへ出発	ホテル
		チェンマイ便へ乗り継ぎ	
	18:00	チェンマイ到着、ホテルへ移動	
8月1日(火)	午前	チェンマイ散策	お寺
	午後	学校へ移動	
8月2日(水)	午前	オリエンテーション	お寺
	午後	建設作業開始	
8月3日(木)	終日	建設作業・交流	お寺
8月4日(金)			
8月5日(土)	終日	観光	希望の家
8月6日(日)	終日	エイズ孤児施設「希望の家」訪問	お寺
8月7日(月)~	終日	建設作業・交流	お寺
8月11日(金)			
8月12日(土)	終日	交流・フリータイム	お寺
8月13日(日)	午前	帰国準備・清掃	機中泊
	午後	チェンマイ市内観光後チェンマイ空港へ	
		バンコクへ	
8月14日(月)		名古屋へ	
	8:00	中部国際空港到着	

ワークキャンプ日記

7月31日(月曜日)

朝8時セントレア集合。一路チェンマイへ。夕方、無事にチェンマイ空港に到着したものの外は大雨。宿泊を予定していたピン川近くのバンケーウゲストハウスは洪水の心配があるために宿泊できなくなった。急遽「希望の家」に電話をいれ宿泊のお願いをする。希望の家のスタッフのジェー君が空港まで迎えに来てくれることになり、一安心。ボサーンでフィッティアオ(米粉のラーメン)を食べ、夜遅くに希望の家に到着。タッサニーさんが寝具や蚊帳の準備をしておいてくれた。石垣さんがジェー君のために日本から釣りの道具をたくさん持ってきた。後日、ジェー君達はこれを使って40匹以上の魚を釣ったらしい。

8月1日(火曜日)

朝からキャンヘルプタイランドが支援しているガサロンハウスを視察に行く。2006年3月のワークキャンプで建設された新しい寮を見学。2005年8月のキャンプで建てた家畜小屋もうまく稼働しているようだった。

ガサロンハウスからドイサケット市場に移動しドイサケット寺の見学と買い物。その後、通訳のムさん、今回の滞在校のウドム先生と合流し希望の家を後にする。途中、ハンドンのレストランでチェンマイ名物のカオソイ(カレー味の麺)を食べ、バンカー市場で買出しをしてから学校へ向かう。学校到着後、荷物を宿泊施設へ運び寝床の準備。学校の子も達はまだ少しよそよそしい。縄跳びやサッカー、ペタンクをしている。



8月2日(水曜日)

朝から建設作業。児童の親もボランティアで作業に加わる。ブロック塀の基礎を作る。一部のメンバーはラ

ムヤイの収穫作業を手伝う。今はラムヤイの収穫時期で村人はみな収穫作業で忙しいらしい。先生の中にもラムヤイ農園を持っている人がいる。お寺での宿泊は快適。シャワーもあるし蚊もいない。ただ、朝5時に鐘が鳴るので嫌でも起こされる。

8月3日(木曜日)

引き続きブロック塀作りと売店の壁の色塗りを行う。力仕事はほとんどをタイ人がやってくれるので日本人はペンキ塗りなどの軽作業をする。夕方からは村を散策。こじんまりとした村だが村内には民芸品を作っている家や雑貨屋、マッサージ屋もある。

8月4日(金曜日)

作業は相変わらずブロック積みとペンキ塗り。学校対抗の縄跳びのコンテストがあり高学年の児童が参加。日本人も一部応援に参加。先生が学校に音楽のテープを忘れるというハプニングに見舞われながらも2位になったという噂。感動のあまり涙した日本人応援隊も・・・。



8月5日(土曜日)

休日。学校から20キロくらい離れた滝を見に行く。その後、洞窟のお寺を見学。カレン族の観光村を見てから象に乗りに行く。1頭200バーツで二人乗れる。1時間くらい森の中を探検。途中、検問があり象のためにバナナを買わないと通過できない。近くの川でいかだ下りも楽しむ。数人が川に落ち、全員がびしょ濡れになった。バンカー市場近くの日本人戦没者慰霊碑を見に行く。第2次大戦のインパール作戦のときここチェンマイでも日本兵の死者がかなりあったらしい。途中、お土産物屋さん(木彫り)に寄ってから、サンパトーンからチェンマイ市内へソンテウ(乗り合いバ

ス)で移動し、歩行者天国マーケットで夕食を食べてからジェー君と合流。希望の家へ向かう。夜8時頃到着し夜のミサに間に合ったのでそこでみんな自己紹介をした。タッサニーさんの娘のトゥンちゃんもチェンライから帰省していた。



8月6日(日曜日)

希望の家で日曜礼拝に参加。3月のキャンプに参加したバンコクのエさんが合流。お昼ご飯はタッサニーさんの娘が作るカオソイ。午後はタッサニーさんの家でミーティング。希望の家のこれからについていろいろ聞く。夕方、ジェー君に学校まで送ってもらう。夕食は村の中の焼肉屋で食べる。ジェー君は豚の生肉を食べていた。日本人は手が出せない。

8月7日(月曜日)

建設作業は順調に進む。特にイベントはなし。売店の壁に壁画を残すことになり制作にかかる。ともこさんが下絵を担当。夕方、村の人で昔日本に観光旅行に行ったことがあるというおじさんが現れる。ストリップ劇場などの写真を見せひとしきり自慢話をして帰っていった。

8月8日(火曜日)

習字で交流。みんな思い思いの漢字を書く。書き順はばらばら。みんなうれしそうに書き終わった半紙を持って帰った。日本人のおじさん達は村の中に行きつけの飲み屋を発見し毎晩のように入り浸るようになる。途中参加していたエさんがバンコクへ帰っていった。



8月9日(水曜日)

午前中は壁画描きと運動会の準備。お昼にスコール。午後1時にスコールがあがったので運動会をはじめ。パンくい競争、飴くい競争、リレー、縄跳びなどをして子ども達と交流。最後に風船を飛ばす。この辺りで子ども達の緊張感も完全にほぐれた。

8月10日(木曜日)

建設作業は大方終了した。仕上げはタイの職人さんたちに任せる。凧作りで子ども達と交流。出来たての凧を引っ張って風のない運動場を全力疾走している子ども達が印象的だった。夕食後、自称ミュージシャンが現れる。何曲か歌って酒を飲んで帰っていった。



8月11日(金曜日)

朝礼の前に托鉢をする。全児童で隣のお寺へ行き、それぞれが持ってきたお米やお菓子などをお坊さんにお供えする。その後、全員でお寺の清掃。連休前の金曜日ということで数名の先生が休んでいるため日本人で少し授業をする。子ども達とは今日が最後なのでダンスや劇などを披露してくれる。下校時に名古屋土産と折り紙を贈呈。光るキーホルダーに子ども達は大喜びだった。夕方は先生方とお別れパーティー。校長先生や村長も参加。日本酒で数名のタイ人が泥酔していた。日本酒は口に合わないらしい。今まで食事を作ってくれた給食のおばさんとも今日でお別れ。楓さんから造花の贈呈。心なしかおばさんの目が潤んでいた。

8月12日(土曜日)

タイでは母の日(王妃様の誕生日)。郡役所でイベントを見学。ハンドンのおみやげ物屋さんを散策。帰りにスコールに遭う。途中、超高級木彫り物屋を見るが高くて手が出ない。夕方前に学校に戻りお坊さんの話を聞く。戦争当時の話を聞きたかったのに、逆に坊さんから今の日本のことをたくさん質問された。夕食は村の焼肉屋さんで食べる。豚肉とキャベツしかな

いが妙に美味しい。このお店には相当お金を落とすに違いない。

8月13日(日曜日)

ウドム先生の車でチェンマイ市内へ移動。空港に荷物を預け、そのまま市内のワットブラシンを見学後、タイで一番おいしいカオマンガイを食べる。食後は博物館を見学。そして、ドイステープへ移動。途中でウドム先生とお別れ。ドイステープ山頂では大雨でお寺見学が思うようにできない。そそくさと街へ戻り、空港近くのデパートで自由行動。夕食、買い物後空港へ移

動しチェックイン。ロンドンのテロ未遂の影響で荷物検査が厳しいかと思ったがまったくだった。奨学金授与式に向かう大矢さんとムさん、数日チェンマイに滞在する山岸さんとはここでお別れ。バンコク空港で乗り換え後名古屋へ。空席が目立ち3シート使って横になることができた。

8月14日(月曜日)

朝、セントレア到着。スタッフの伊藤さんと松本さんが出迎えてくれる。全員無事に帰国。

ファイナムカオ学校の子どもたちから届いた感想文

親愛なる皆様へ、

学校に来てくださった皆さんのことをいつも思っています。また遊びに来て欲しいです。皆さんが学校に滞在したときの体験を書きたいと思います。おじさん、おばさんたちのことが大好きです。むお姉さんが皆さんと喋るように、私も日本語を喋りたいです。

私は日本人になりたいです。冬が大好きだからです。雪を見たいです。ドラえもんなど日本のキャラクターを見たいです。テレビで見ましたが、実際にいるかどうか分かりません。日本料理も味見したいです。そして皆さんがどんなところに住んでいるか知りたいです。そしてとても見たいのが富士山です。地震はどんなものかも知りたいです。タイでもありましたが、そんなに揺れていませんでした。

私の住所を書きますね。良かったら遊びに来てください。そして手紙もください。皆さんがいなくてさびしいです。そして写真を見たいです。みなさんが作ったもの(手作りのもの)も欲しいです。また学校に来てください。みなさんのことを忘れません。私が金持ちになったら両親に断って日本に遊びに行きます。そして皆さんのところに遊びに行きます。おじさんが食堂の工事、犬が中に入らないように壁を作ったときはとても感動しました。みんなが協力しあいましたからです。私は日本語で話したかったですが、簡単なことしか喋れません。「私は Sudarat です。」などです。そして写真もたくさん取りたいです。お習字の授業で書いた日本語は大事に取っています。凧も大事にしています。みなさんのことを思うとこれらを取り出して思い出します。みなさんも私たちのことを思ったらこの手紙を見てください。皆さんをいつも待っています。皆さんが学校に来てくださったこと、大変幸せでした。最後に、さようなら。

Sudarat Manopan

親愛なる皆様へ、

食堂の壁を作ってくださいありがとうございました。皆さんにまた学校に来て欲しいです。また日本語を教えてください。皆さんが私たちの学校を大変よくしてくれました。

日本の凧の作り方を教えたり、日本語を教えたり、本当にありがとうございました。むお姉さん、通訳して下さってありがとうございました。日本人が何を喋るか分かりました。そして日本語入門の資料もありがとうございました。みなさんが売店の壁に描いてくれた絵はとてもきれいでした。みなさんのおかげで売店を完成できました。みなさんが来なかったらこんなにきれいな売店はできないでしょう。そしていろいろお土産をありがとうございました。皆さんに手紙を書くチャンスがあった嬉しいです。皆さんが来たとき、どう思ったか書きますね。

機会があったら日本に遊びに行きたいです。桜を見たいです。日本の町も見たいです。日本の学校、日本の子供、日本のスポーツを見たいです。夏にはプール遊び、冬には縄跳びをやると聞きましたが、タイとは違いますね。タイでは夏に縄跳び、冬には体が温くなる遊び、何でもやります。日本では雪が降ると桜が咲くと聞きました。桜が咲くととてもきれいで、日本人はみんな桜の木の下でピクニックをするそうですね。チサお姉さん、私は自分の名前を日本語で書けるようになりました。先輩たち、友達たちも書けます。日本語もたくさん知りました。朝の挨拶、午後の挨拶、美味しいなどの言葉を勉強しました。そして日本語で「きれい」という発音の意味は、タイ語とは反対ですね。そして日本人が喋る言葉で分からないのがたくさんありました。日本人はとても長生きして、経済的に発展しています。日本人は喧嘩せず幸せに暮らしていると聞きました。

Jiranan Pankaew (女) 小4

2006年度 奨学金授与式報告

8月14日 ～ 8月20日（7日間）

報告者 大矢 治夫

今回の授与式はチェンマイ近郊のファイナムカオ村小学校のワークキャンプに8月13日まで参加して、引き続き奨学金授与式を実施しました。14日は東北地方への移動日となり、15日～19日までの5日間に、7県で87名に奨学金を授与しました。詳細は次のとおりです。又2006年6月の授与式の授与人数も参考に記載します。

2006年度の奨学金計画授与人数は250名です。6月の授与数154名+8月の授与数87名で241名の授与が実施できました。都合で授与式当日に間に合わなかった生徒が数人いますので、最終的にはほぼ計画人数の支給が出来るものと予想されます。

表一 2006年8月授与式(4泊5日) 移動距離 800Km

県名	授与人数	男性	女性	今年度授与人数順位
チャイヤブーン	14人	3人	11人	9位 (2号線の西側)
ルイー	6人	2人	4人	15位 (2号線の西側)
ランブーン	10人	2人	8人	10位 (2号線の西側)
ウドンタニ	9人	0人	10人	10位 (2号線の西側)
サコンナコン	10人	3人	7人	10位
ムクダハーン	22人	7人	15人	3位
ナコンパノン	16人	1人	15人	8位
計	87人	18人	69人	

注)ナコンパノン～バンコックは国内航空機で移動

表二 2006年6月授与式(6泊7日?) 移動距離 900Km

県名	授与人数	男性	女性	今年度授与人数順位
サッケオ	18人			6位
ブリラム	33人			1位
スリン	29人			2位
ジサケムット	9人			13位
ヤソトーン	19人			4位
ロイウット	17人			7位
カラシン	19人			4位
マハサラカーン	9人			13位
ウドンタニ	1人			
計	154人			

注)ウドンタニの1人はコンケン大学での出張授与。

注)コンケン～バンコックは国内航空で移動?

～奨学金授与式の一日の日程～

宿泊のホテルへ、8時30分～9時の間に、県の教育委員会の奨学金担当職員が教育委員会の専属運転者付のボックスカーで迎えに来ます。授与式は県の教育委員会の建物の会議室又はホールで行うのが普通です。

ホテルから10分ほどで会場に到着すると、既に生徒や、引率の先生、父兄、教育委員会の関係者が会場に集まっています。程なく司会者の呼びかけで、最初に県の教育委員会の奨学金担当部局の責任者が、挨拶をします。どこの会場でも、キャンの長年の奨学金支援に対する感謝と、今後も続けて支援を要請する言葉が続きます。挨拶の内容はむ。さん、が簡潔に訳してくれます。続いてキャン側の挨拶となります。

今回は私が挨拶することに成りました。以下のような挨拶でした。

サワデイ カップ(みなさん今日は) ポムジュウ オオヤ ハルオ カップ(私の名前は大矢治夫です)
マジャーク イーブン ナゴヤー(日本の名古屋から来ました。)

私は今日の奨学金プログラムを実施している、キャンヘルプタイランドを代表して参りました。

又私はキャンヘルプタイランドの奨学金プログラムに資金を提供して下さる日本の支援者、ドナーと言いますが、そのドナーを代表して、皆様へ直接奨学金を手渡すために来たのです。

日本のドナーの一番の願いは、この奨学金が勉強する為のお金として、有効に使われることを願っています。自分の楽しみや、他人の為に使うことの無いように願っています。

私たちは皆、貴方たちの幸せを心より願っています。

皆さんは学生生活を十分に楽しんで、そして タンチャン リアン(シッカリ勉強してね)

挨拶が終わると直ちに奨学金を渡します。一人ずつ名前を呼んで、私から書類と、封筒に入れた現金を手渡して、私と子供と二人で写真を撮ります。確かに届けた証拠としての写真です。全員に支給終わると、キャンへの提出書類の説明がムさんから、なされます。説明が終わって時間が有れば、子供たちに将来の進路希望を聞いたり、日本のことの質問に答えたりして、楽しい雰囲気になります。最後に提出書類を点検したりして、教育委員会からの挨拶で閉会と成ります。開式後1時間～長くて2時間で閉会します。

子供たちや、関係者と記念写真を撮ったり、教育委員会の担当者と挨拶したりしてほどなく、朝の迎いの車に乗り、次の県の教育委員会へ送ってもらいます。たいていは奨学金担当者が随行して下さり、時間の余裕があれば、沿道の観光名所に少し立ち寄り、奨学生の家庭訪問を企画して下さったり、昼食を一緒にして、懇談したりして楽しいひと時を過ごします。今回は3人の家庭訪問が実施でき私にとっての貴重な成果でした。



次の県までの移動が短ければ、午後から授与式を行う場合と、遠隔地の場合は夕方まで車移動となります。地方幹線道路を90から100km/Hで疾走しますが平均すれば時間当たり60kmの移動距離が精一杯です。ちなみに日本では、高速道路以外なら郊外で50kmの移動はまれです。

今回の最も長い移動はチャイブーン～ルイー一間の230kmでした。車の移動に平気な私には、沿道の風景は楽しみの一つですが、車に弱い人には一週間の移動は苦痛かもしれません。後で記述する経費削減案に長距離移動は避けられないことです。

こうして次の県のホテルには早くて 16 時、遅くて 18 時ごろまでには到着します。送迎して下さった教育委員会の運転手や随員の職員へのお礼、ガソリン代、昼食の費用等はキャンが負担します。

以上が平均的日程でこのよう旅が一週間続きます。

旅行中不便なことは下着を含めて洗濯が殆んど出来ません。上着は汗になるので毎日着替えが必要です。しかし夕方到着・朝出発で洗濯物は乾燥しません。

私は幸いワークキャンプで衣類は十分あったので間に合いました。次回参加の方は十分ご用意下さい。

ワールドコラボ・フェスタ出展

毎年秋に開催される「ワールドコラボ2006」は今年も10月29日30日の両日にわたり名古屋中心街のテレビ塔近くを会場に開催され、私たちも国際協力団体の一角に出展しました。

今回は、活動紹介として春のカサロンと夏のチェンマイで実施したワークキャンプの写真を展示し、マイペンの皆さんの協力で昨年も好評だった「タイ語で名前を書きます」コーナーと、山岳部少数民族の雑貨販売を、小さなブースで盛りだくさんに実施しました。

両日とも好天に恵まれ穏やかな日差しの中で、子供から老人まで多くの人たちが会場を訪れ、私たちのブースにもたくさんの方が足を止めてタイ文字に歓声をあげたりキーホルダーやバック等の小物を選んだりされて、用意した100枚以上のパンフレットも無くなる盛況でした。

タイ雑貨の販売も好評でしたが、私たちの活動に興味を持ってくれた人や他団体や大学の先生とも情報交換ができて、今後の活動につなげていく事ができそうです。

ただ、狭いブースでの展示方法等改善したい点も見つかри、来年はこれらを解決しながら実施していきたいと思います。

今回も運営委員を中心に10名程が参加して、両日のブース運営が事故も無く実施できた事に感謝します。

報告者 松本



参加募集

2007年3月ワークキャンプ参加者募集

キャンヘルプタイランドは、タイ北部の街チェンマイ近郊で、北部山岳部に住む民族の子どもたちが共同生活する学生寮を充実させるためのワークキャンプを行います。現地の寮に滞在しながら子どもたちと共同で食堂の建設作業を行います。セメント練りやブロック積みなどの簡単な作業ですので特別な技術は必要ありません。また、現地で1週間以上生活しますので、一般の旅行では体験できない現地の人たちとの深い交流は一生の思い出が出来ます。高校生以上の健康な方ならどなたでも参加いただけますので、興味のある方はぜひご応募下さい。

日 程：3月17日(土)～3月26日(月) 10日間

参加費：48,000円(別途チェンマイ往復の航空券が必要)

募集人数：10名～20名

応募方法：事務局に資料請求後、必要事項をご記入の上ご返送ください。

応募締切：2月24日(土) 必着

活動報告

(2006年9月～12月)

活動	月日(場所)	内容
ワークキャンプ反省会	9月16日 名古屋事務所	夏のワークキャンプに参加した7名で反省会を行った。
運営委員会	9月23日 名古屋事務所	ワークキャンプ報告。奨学金プログラムの方向性について相談。
運営委員会	10月21日 名古屋事務所	ワールドコロポ出展準備、2007年度事業計画について相談。
臨時運営委員会	11月18日 名古屋事務所	次年度奨学金プログラム、ワークキャンプ実施について相談。
運営委員会	11月25日 名古屋事務所	次年度奨学金プログラム、ワークキャンプ実施について相談。
運営委員会	12月23日 名古屋事務所	総会、ワークキャンプ実施について相談。

編集後記

- ▼ 発行が遅れておりました NT 通信がようやく完成しました。事務局の人手不足により会員の皆様には大変ご迷惑をおかけしております。キャンヘルプタイランドは無給のボランティアスタッフによって運営されていますのでご理解のほど、よろしくお願いいたします。
- ▼ 昨年の秋、バンコクに新しい空港がオープンしました。昔のドンムアン空港にはすごくお世話になったけど、新しい空港にも早く行ってみたいものです。タイの経済発展はすさまじい勢いですね。

<キャンヘルプタイランドネットワーク通信>

発行 キャンヘルプタイランド
発行人 西川 弘達
編集人 坂 茂樹
発行日 2006年12月
住所 〒450-0003
名古屋市中村区名駅南1-20-11
NPOプラザ名古屋2F南
Tel & fax 052-566-5131
(OPEN: 毎週火、木・土曜の13~17時)

E-mail: canhelp@npo-jp.net
ホームページ: <http://www.canhelp.npo-jp.net>